

学校名	武雄市立山内東小学校
-----	------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・最終評価に向けて数値目標を向上させることができた。これからも数値目標以上となることを目指していきたい。 ・さらなる「学力の向上」と「心の教育の充実」を目指していきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	ひとりひとりが かがやく こころやさしい 山東っ子 ～地域と共にある学校づくりを通して～
----------	--

3 本年度の重点目標	①わかりやすい授業、確かな学力のつく授業を展開できるように、日々授業改善を行う。 ②しつけ三原則（挨拶、返事、はきもの揃え）の指導に力を入れ、いじめ防止に努め、思いやりの心を育て、心の教育の充実を目指す。 ③たくましい心と体をつくるために、体力向上と食育に努め、活気のある元気な児童を育成する。
------------	---

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○教師アンケートで「授業づくり1・2・3 Vol.1&2」を意識した授業実践を行った」の割合を80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、授業の中で、自分の考えを書いたり、説明したりする活動をしくみ、児童の考えを交流させる授業実践に取り組む。	A	・「授業づくりのステップ1・2・3Vol.2」を活用した授業実践が「おおむねできています」と回答した教師は100%であった。今後も児童の考えを交流させる授業実践に取り組む。	A	・「授業づくりのステップ1・2・3Vol.2」を活用した授業実践が「十分できている」、「おおむねできています」と回答した教師は85.7%であった。成果指標を上回ったものの、中間評価時よりも数値が低くなっており、今後も「授業づくりのステップ1・2・3Vol.2」を意識しながら授業実践に取り組む。	A	・最終評価が中間評価より低くなった原因についての分析を行い、それを基に改善することが必要だと思われる。 ・授業で学んだことの定着が学力向上につながるため、スキルアップの方法の検討が必要と思われる。	・学力向上コーディネーター ・学習部
	○全職員による学習規律の徹底	○教師アンケートで「山東っ子の学習習慣」を守り、学習規律の指導ができた」の割合を80%以上	・「山東っ子の学習習慣」が身についているか振り返りの時間を設ける。 ・学級通信で発信をし、家庭との連携を図る。	A	・「山東っ子の学習習慣」を守り、学習規律の指導ができた」と回答した教師は100%であった。今後も定期的に振り返りの時間を設けてさらに徹底させる。	B	・「山東っ子の学習習慣」を守り、学習規律の指導ができた」と回答した教師が92.9%であったのに対し、「山東っ子の学習習慣」が守れた」と回答した児童は、調査項目別にみると、多くの項目が70%～80%程度にとどまった。今後も引き続き、「山東っ子の学習習慣」を活用し、定着できるように指導していく。	B	・「山東っ子の学習習慣」が守れた」と回答した児童が70%～80%程度だったことを踏まえ、「山東っ子の学習習慣」の徹底が望まれる。	・学力向上コーディネーター ・学習部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観と正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートで「相手がいやがることをしない、いわない」の達成率を80%以上	・人権集会を実施(人権標語に取り組む)し、学級での振り返り指導を実施する。 ・授業参観で、年1回「ふれあい道徳」を実施し、地域や保護者に公開する。	A	・「相手がいやがることをしない、いわない」で肯定的な回答をした児童は97.6%であった。「できていない」児童への指導支援を今後も継続していく。 ・6月の授業参観で「ふれあい道徳」を実施し、児童の道徳性を高めていく過程を地域や保護者に公開することができた。	A	・「相手がいやがることをしない、いわない」で肯定的な回答をした児童は96.9%であった。前回から若干の減りが見られたため、全児童への指導支援を継続して行っていく。 ・講師を招いての11月の人権集会では、分かりやすい内容と歌で、児童の人権意識をさらに高めることができた。今年度は人権週間を年2回設けたことで、児童の意識も高まった。	A	・最終評価で、「相手がいやがることをしない、いわない」で肯定的な回答をした児童が96.9%いるということで、人権意識についてはかなり高いと思われる。 ・どんなことが相手がいやがることなのかを想像できるところまでの意識が高まってほしい。	・人権同和教育担当 ・道徳主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について「組織的対応ができている」と回答する教員の割合を80%以上 ○児童アンケートで「学校が楽しい」と回答する割合を80%以上	・生活アンケートを行い、いじめや生徒指導上の問題の早期発見、早期対応に努める。いじめを認知した場合は、すぐに校長をトップとしていじめ対策委員会を開き、組織で対応案を考え、児童に寄り添った対応を図る。 ・「学校が楽しい」と答える児童がいた場合は、しっかりと寄り添い、少しでも美しく感じられるよう教育相談を充実させる。	B	・いじめの防止等について組織的対応が「十分できている」と回答した教師は45.0%、「おおむねできている」と回答した教師は50%であった。 ・「学校が楽しい」と回答した児童は、91.6%であった。いじめアンケートからのアンケートから、「楽しくない」と回答した児童の困り感を聴き教育相談をおこなっていく。	B	・いじめの防止等について組織的対応が「十分できている」と回答した教師は42.9%、「おおむねできている」と回答した教師は57.1%であった。些細なことも管理職に報告、相談し、初期の段階で組織的に動くことが必要であった。 ・「学校が楽しい」と回答した児童は、92%であった。しかし、「楽しくない」と回答している児童もいるため、児童の困り感に耳を傾け、寄り添った対応が求められる。	B	・「学校が楽しい」と回答した児童は、92%いるということで、多くの児童は楽しい学校生活を送っていることが認められる。しかし、「楽しくない」と回答している児童もいるので、その子達への対応を細やかにしていくことが大切だと思う。 ・「楽しくない」と回答している児童への対応策を具体的に述べた方がよい。	・生徒指導主任(生活部) ・教頭
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・「児童に対して「褒めて伸ばす」姿勢で臨み、児童のよさを生み出す言葉等で表現して伝える。 ・高齢者体験、手話体験、車椅子体験等、体験活動を通して、将来の職業や生き方に対する見方、考え方を学ばせる機会を設定する。	B	・「先生がよいところを褒めてくれる」について肯定的な回答をした児童は89.4%であった。これからは児童に対して褒めて伸ばす姿勢で臨んでいくようにする。 ・「自分の夢や目標に向かって努力している」「自分の肯定的な回答をした児童は95.2%であった。今後、体験活動を取り入れ、将来の職業や生き方に対する見方、考え方を学ばせる機会をつくっていく。	A	・「先生がよいところを褒めてくれる」について肯定的な回答をした児童は、95.2%であった。前回よりも、8.8%伸びた。これからは児童一人一人に向き合い、褒めて伸ばすを意識していく。 ・「自分の夢や目標に向かって努力している」「自分の肯定的な回答をした児童は95.1%であった。引き続き地域人材の活用や体験活動を通して、自分の将来について見つめる機会をつくっていく。	A	・最終評価で、肯定的な回答をした児童が95.2%いるということで、先生方の温かみのある姿勢が児童に受け入れられていると思う。 ・近隣の教室が多くなって他学年とのふれあいや呼びかけが少なくなっていると思う。そのため、同じ階に教室配置をするなど検討されてもいいのではないかなと思う。	・全職員 ・総合的な学習主任 ・特別活動主任(特活部)
	◎地域との連携による郷土愛の育成	○「ふるさと山内」について学習することは好き」と回答する割合を80%以上	・地域人材を活用した体験活動を含めた単元学習を仕組み、各学年で1回以上実施する。	B	・「ふるさと山内」について学習することは好き」と回答した児童は89.2%であった。また、「地域人材を活用した体験活動を含めた学習をおこなった」と回答した教師は、71.4%であった。各学年で1回以上実施し、郷土愛の育成につながる。	A	・「ふるさと山内」について学習することは好き」と回答した児童は95.2%であった。また、「地域人材を活用した体験活動を含めた学習をおこなった」と回答した教師は、71.4%であった。児童の実態に合わせて、年に1回は地域と協力しながら児童の郷土愛の育成につなげる。	A	・地域人材の活用も積極的に行われていることで、児童の郷土愛の育成につながっている。 ・郷土芸能継承の重要性など、関係者より歴史を学ぶ機会があればよい。 ・地域のお年寄りとの交流の時間を設け、昔遊びを教えてもらうのはとてもよい。子ども達からお年寄りに新しい事を教えるのもよい。	・全職員 ・総合的な学習主任 ・特別活動主任(特活部)
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	・全学級で「スポーツチャレンジ」に1種目以上に取り組む。 ・「スポーツチャレンジ」週間を設け、結果を定期的に公表し、掲示する。	B	・「毎日外で遊んでいる」と回答した児童は43.1%、「週に2～3日外で遊んでいる」と回答した児童は29.9%であった。 ・運動をする児童を増やすため、12月に「スポーツチャレンジ週間」を設け、全学級で「スポーツチャレンジ」に取り組む計画である。	B	・「毎日外で遊んでいる」と回答した児童は43.9%、「週に2～3日外で遊んでいる」と回答した児童は32.3%であり、上期と比べて運動している児童の割合が増加していた。 ・「スポーツチャレンジ週間」を設けたことで、全学級で運動に取り組む機会が増えた。	B	・授業以外で運動やスポーツに親しむ時間がなかなか取れないと思われるので、スポーツチャレンジ週間」を設けられたことはよいことだと思う。 ・「スポーツチャレンジ週間」を設けたことで、全学級で運動に取り組む機会が増える。	・体育主任(保体部)
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○児童・保護者アンケートで「毎日朝ご飯を食べている」割合を90%以上	・生活状況調査や食に関する意識調査などを実施する。 ・保健便りやアンケートを通して、朝食をとることの大切さの理解と啓発を行う。	B	・「好き嫌いせず、に、食事をしている」と回答した児童は、91.6%であった。また、「毎日朝ごはんを食べている」と回答した児童は、88.0%であった。今後、「早寝・早起き・朝ごはんチェック」を実施し、朝食をとる大切さの理解と啓発を強化をおこなっていく。	A	・「好き嫌いせず、に、食事をしている」、肯定的な回答をした児童は92.7%、「毎日朝ごはんを食べている」に対する児童回答、保護者回答は、ともに92.7%であり、成果目標を上回った。早寝・早起きを苦手とする児童が一定数みられたため、早寝・早起きの啓発を行うことで、朝食喫食率をさらに高めていく。	A	・健康によい食事をしている児童が92.7%、「毎日朝ごはんを食べている」に対する児童も92.7%いることで、健康に留意した食事ができていると思う。 ・朝ごはんは、一日の元気の源であるので、100%を目指してほしい。	・保体部 ・栄養教諭 ・食育推進担当者 ・保健主事
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教務委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(金曜)を設定し、メリハリのある勤務形態とする。 ・月ごとに在校時間集計を個別に配布し、在校状況を確認しながら時間外在校等時間を削減していくとする意識を高める。	B	・「時間外業務の削減を意欲し、日々の業務に取り組むことができた」と回答した教師は85.7%であった。今後も個々のその月の勤務状況を把握し、超過勤務削減に向けた業務改善を図っていく。	A	・定時退勤日の金曜日は、他の曜日に比べ、早い退勤を意欲できている。 ・「時間外業務の削減を意欲し、日々の業務に取り組むことができた」と回答した教師は78.6%であった。時間外勤務時間の1週間45時間を9割の職員は意識できていて、ワークライフバランスのとれた働き方ができている。	A	・最終評価で「時間外業務の削減を意欲し、日々の業務に取り組むことができた」と回答した教師が78.6%で、中間評価より少なくなった要因を調べ、改善していくことが望まれる。	・教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○行事・会議の効率化	○行事や会議の効率化を図り、児童と向き合う時間を確保する。 ○教師アンケートで「行事や会議の効率化により効果的な教育活動につながった」割合を80%以上	・ススキ校務やフォーム(アンケート機能)などICTの活用で業務の効率化を図る。 ・職員会議を2か月分一緒に提案するなど、会議の効率化を図る。	A	・「行事や会議等の効率化を図り、児童と向き合う時間の確保や時間外勤務削減につながった」と回答した教師は93.4%であった。 ・ススキ校務やフォーム(アンケート機能)などICT活用により、業務の効率化ができている。	B	・「行事や会議等の効率化を図り、児童と向き合う時間の確保や時間外勤務削減につながった」と回答した教師は78.6%であった。会議が長時間になりやすく、提案の仕方等を変えていく必要がある。	B	・「行事や会議等の効率化を図り、児童と向き合う時間の確保や時間外勤務削減につながった」と回答した教師が78.6%で、成果指標をやや下回っていることを踏まえ、更なる改善を期待する。	・指導教諭 ・教頭
	○教員の専門性と意識の向上と一人一人の児童のニーズに応える教育の推進	○特別支援に関する専門性が向上した教員を80%以上にする。	・「気になる子」に関する情報交換の場を週1回設け、共通理解を図る。 ・ケース会議や職員研修の場を設け、合理的配慮に基づいた指導、インクルーシブ教育の視点に立った環境を整える。	A	・「職員研修やケース会議等を通して、職員の共通理解を図り、特別支援についての意識、専門性が向上した」と回答した教師は100%だった。専門性の高い講師を招いて夏休業中に研修をおこなう。デジタルツールの力を借りて支援方法を見出すこともできている。 ・週1回の情報交換の場で「気になる子」の共通理解ができている。	A	・「職員研修やケース会議等を通して、職員の共通理解を図り、特別支援についての意識、専門性が向上した」と回答した教師は92.8%だった。今後ケース会議を重ね、個に応じた支援をおこなっていく。 ・週1回の「気になる子」の共通理解を通して、全職員が同じ対応ができ、よい支援となっている。	A	・特別支援についての意識、専門性が向上した」と回答した教師が92.8%であり、成果指標をかなり上回っていることから、特別支援教育に関する専門性が高まっていることがうかがえる。 ・変化を見逃さないように、ケース会議を続けておこなってほしい。	・特別支援コーディネーター ・教育相談担当
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○安全教育・防災教育の充実	○安全に関する資力・能力の育成	○防災教育を推進し、教師・児童のアンケートで「防災に対する意識が高まった」と回答する児童80%以上	・防災・減災教育の出前講座を活用し、防災に関する知識を深める。 ・避難訓練や防災教室などを通して、安全教育や防災教育について意識を高める。	A	・避難訓練や防災教室などを通して、安全や防災について考えるようになった児童は92.8%。安全教育や防災教育について意識が高まった教師は100%であった。山内中、山内西小との合同で開催したスクエア・ストリート方式交通安全教室に5.6年生が参加し、交通安全に対する意識を高めることができた。	A	・毎月の全校集会などにおいて、交通や防災について繰り返し話すことで、安全や防災について考えるようになった児童は、95.8%に伸びた。 ・全職員とも安全教育や防災教育について共通理解を図り、今後も定期的な指導を実施していきたい。	A	・児童の防災に関する意識の高まりが見え、日頃の指導の成果だと思われる。	・生活部 ・指導教諭 ・教頭
●…風共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育										

5 総合評価・次年度への展望	・ほとんどの項目において成果指標を上回る評価であったが、「運動習慣の改善や定着化」では、やや下回る評価であったので、次年度に重点的に取り組みたい。 ・「心の教育」には重きを置いて取り組んだので、中間評価に比べ最終評価では向上が見られた。 ・次年度に向けて、本年度の3つの重点目標をさらに達成できるように、具体策を示し取り組みたい。
----------------	---